

同窓会報



鳥羽商船同窓会

〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL (0599) 25-8045
FAX (0599) 25-8128
携帯電話 090-7612-2979
振替口座番号 00850-6-846

Home Port

私の原点



◆ 目 次 ◆

同窓会会長・学校長 挨拶…………… 2	NPO法人故郷の海を愛する会の報告 …… 10
令和3年度 本部会務報告…………… 4	学校だより…………… 12
令和4年度 本部会務計画…………… 5	支部だより…………… 14
令和3年度 会計報告…………… 6	投稿記事…………… 16
創立140周年記念事業会計報告…………… 6	特集「我等! 鳥羽商船」…………… 18
令和4年度 予算…………… 7	事務局だより…………… 24
令和4年度 同窓会役員・理事…………… 7	会員の異動等…………… 25
同窓会の活動…………… 8	寄付金・同窓会費納入一覧…………… 26

同窓会会長・学校長挨拶

同窓会設立100周年 に向けて思うこと

同窓会会長 **菅沼 延之**
S48N(88期)



本年6月にコロナ禍をかいぐり、3年ぶりに同窓会定時総会及び懇親会が母校にて開催できました事は、誠に嬉しいことでありました。何といっても懇親会にて、母校創立140周年記念品として製作した「思い出の鳥羽商船」の船歌集DVDを基に、プロの方々による船歌合唱は大変強く印象に残ったものと思っております。

さて表題につきまして、就任して3期目の同窓会会長として日頃考えておりますことを記しますので会員の方々におかれましては、一度思案して頂きますようお願い申し上げます。

我が恩師、落合弘明先生が会長であられた時分は、会活動、事務は先生を中心として、在校の同窓生が一丸となり同窓会を運営されていたとの覚えがあります。先生の御退任後は三代続けて遠隔地の方が会長に就任され、同窓会事務局は地元の伊勢志摩支部の理事が中心となり継続しております。このことが遠方の会長と事務局との間に心理的、物理的にも意思疎通が難しいのではないかと懸念を抱いておりました。

そこで、私が会長就任後は、鳥羽へ出向き学校や事務局との連絡を密に取り合うように心がけております。昨今は、コロナ禍の中、総会や理事会、役員会をなかなか開催できず、その中で母校創立140周年記念事業を行う難しさを痛感いたしました。重要案件については、適宜役員会、支部長会をメール・対面で開催し、理事会に上程し、今日に至っております。特に会計の支出については急を要する案件も多く、まだまだ課題が多いところです。

そして、令和7年に同窓会は大正14年(1925年)設立から100年・実に一世紀の節目の年を迎えます。会員名簿を見る限り、昭和13年(55期)までに卒業された全ての方々は校祖・近藤真琴先生の下へ旅立たれました。それから幾星霜、母校も同窓会も諸問題を一つ一つ解決して参りましたが、設立100周年を目前にして、今一番考えなくてはならない事は言うまでもなく、実質的な会員数の減少に関することであります。代々受け継がれて来ました貴重な同窓会運営資金を極力取り崩さず、基本的には毎年の会費を基に、年度が1円でも黒字になるよう努めております。しかし、会費徴収の右肩下がり傾向に歯止めがかからず、毎年の決算には四苦八苦しているのが現状であります。

同窓会主催の母校創立140周年記念に当たりましては、たくさんの方の寄附金をいただいたことは記憶に新しいところであり、頭の下がる思いであります。その年代別寄附の内訳を見ますと、昭和年代に卒業した商船系同窓生で80%以上占めており、平成・令和年代からの寄附は急速に減少しております。その要因には、経済的にも年会費を納めるのが精一杯の年代で、寄附をしたくても許される環境でない事は十分承知・理解しております。もう一つの要因として、工業系が新設され、平成2年からは全寮制が廃止になったことで、所謂『同じ釜の飯を食べる』といった連帯意識の希薄化が進んだことも少

なからずあるのではないかと考えております。今後、会の運営をスムーズに行うには、まずは年会費納入者の増加が必要で、そのためにも同窓生が母校を誇りに思い、如何に愛着、関心を持ち続けてもらうかが大きな課題と考えております。

同窓会設立100周年事業は、学校主催の母校創基150周年事業に併せて執り行うことは、既に承認を頂いております。残り3年を切った期間中に、具体的な目標金額の目安や『同窓会100年の歩み』(仮題)等、経済事情を鑑みつつ、何を形にして行くかを決めなくてはなりません。母校創基150周年・同窓会設立100周年・大型新練習船登場の三大慶事を迎える令和7年に向けて、皆様から会長職の附託を受けている以上、それぞれの人生の記憶に残る祝祭になるよう『負けじ魂』で尽力し前に進む所存であります。

ここに改めて、皆様のお力添えを頂きますことを切にお願ひ申し上げます。

学校長挨拶

鳥羽商船高等専門学校
校長 **和泉 充**



海運や物流産業の様相は、常に国際政治経済社会の縮図、小職も昨年4月から海事新聞を連日隈なく読むようになりました。社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争、物材の大量消費国の動向、あるいは金利政策などの影響を受けて大きく変動しています。2020年の到来以来、COVID-19、新型コロナウイルスによる感染症の感染拡大との闘いが続いており、2022年の8月時点で第7波。ニューノーマル、「新しい生活様式」という表現が、新型コロナウイルスと対峙する人類の社会様式として普及しています。しかしながら、マスクの着用などエアロゾル感染のリスクを減らす行動を除けば、スマホの普及、オンデマンドのプログラム、交通系含む電子決済あるいはネット決済などコンビニエンスをひたすら求めて進んでいた社会のひとつの着地点に至ったといえます。海外の有名大学の講義も、はるか前から誰でもインターネットで垣間見ることができており、日々の授業や学修の参考になっていました。便利になった反面、情報を適切に活用できて、共有するシステムをもっているかいないか、もっていても有効に組織内で機能しているかで環境の格差が生じており、高等教育の組織においても例外ではありません。一方では、対面でのコミュニケーションがますます必要であることも再認識されました。便利さの象徴であるペットボトルのポイ捨てや、SNSでのいろいろなトラブルなど“わきまえなければならない倫理”の問題も顕在化しています。本校でも情報倫理をはじめ教職員と学生が一体となって学校の生活環境の質の向上に努めていきます。2021年度入学式で「立志と思いやり」の話しのあと結びました。「学校は楽しい。」と一人残らず思えるように。

本校では、新型コロナウイルスによる感染拡大への対処は一貫しており、「校内において人から人へ感染させない」に尽きます。学生と教職員、保護者、食堂など関係各位のご足



名古屋メッキ工業株式会社
NAGOYA PLATING CO.,LTD.

本社
熱田工場・事務所
守破離工場
海のロマンス工場
櫻華工場

本社
〒467-0863 愛知県名古屋市瑞穂区牛巻町4番6号
TEL/052-882-3954
https://www.nagoya-mekki.com

代表取締役
菅沼 延之(S48N・88期)

力でここまで来ました。末尾にQRコードを示しました¹⁾。2020年3月時点の国際感染症センター長大曲貴夫先生のお言葉、「この病気の怖さというのは…(中略)…“罹っちゃいけない”…。ずっと頭に刻んできました。皆様もぜひ改めて御覧ください。本校の立地する三重県も、8月5日に「BA.5対策強化宣言」が発出されています。一言加えるとしたら、「家庭内でもマスクをする」です。ソーシャルディスタンスという語感が、誤解を生んでいたかもしれません。エアロゾル感染をあらゆる局面で防ぐとしたら、一人ひとりが、科学的に思考し感染から自分と他人を守る努力をすることが大原則、また油断しやすいのも現実です。

COVID-19、新型コロナウイルス感染症の拡大は、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を高めたと思っています。日本では、物流、特に海運に対する人々の関心が薄いと多くの方が述べられてきました。海洋基本法にもとづき2018年5月に閣議決定された第3期海洋基本計画では、「海洋人材の確保・育成を取り巻く環境として、人口減少・少子高齢化やグローバル化等が大きな影響を与えている。」とし、「優秀な人材を確保する上で、海洋人材を目指す若者が、海洋に関連する高校、高専、大学等に進学することを通じ、魅力ある就職先を明確にしていくことが必要である。」としてきました。小中高の新たな学習指導要領実施に伴って海運の記載も社会科に加わっています。5年ごとに策定される基本計画、来る第4期では、脱炭素・DXに対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、慢性的なエネルギー問題を抱える我が国は、洋上風力や再生可能エネルギーの利用、資源調査に必要な海のドローン、水中ロボットの持続的な開発などに社会の関心が集まっているようです²⁾。

本校では、「人づくりを通じて海づくり：海事・海洋DX、情報や機械のシステム産業と地域経済に貢献するマリリゾート・コアキャンパスの創成（令和3年8月校長より法人理事長に提出済）」に向けた取り組みを進めており、学校運営委員会をはじめ、練習船代船建造検討委員会、施設・環境整備委員会に鳥羽丸、キャンパスマスタープラン（CMP）、混住型国際寮（多文化交流生活寮、MELD）、棧橋・艇庫などのWGを設置、また、創基150周年・高専創立60周年記念事業委員会を設置して基金の開設とともに2025年に向けた作業部会が活動を開始しており、校近藤真琴先生の教育理念と教育目標の持続可能な具現化をめざしています。創基150年を礎に世代国境を越えた近未来メタバースキャンパス創造プロジェクト、校舎地区や艇庫の東海・東南海・南海地震、津波への対応含め、レジリエントなキャンパス鳥羽、近未来の青写真の整備も進めていきます。

事業経費導入の点では、国の令和3年度補正予算で「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択、さらには令和4年度に至り、「GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化（採択分野：農林水産）」「とる」から「つくる」へ農林水産のDX推進プロジェクト」に採択、全国高専の中核拠点校として体制の構築が着々と進められています。教育面では、従来からの海事人材育成の取り組みに加えて、外航・内航船員・海技者として、また情報機械システム産業を担うにふさわしい英語の語学力の向上をめざして取り組みを進めます。

AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・

能力の育成、STEAM（Science, Technology, Engineering, Mathematics, Arts）教育が求められています。本校は皇學館大學と包括連携するとともに、教員と学生を地元の小中学校に派遣して出前授業などを行っています。筆者も近隣の中学校の校長先生を訪問していますが、大変好評とご感想をいただいています。

令和4年度にはいつて、対面とオンラインの効用を活用しながら、保護者懇談会、奨学後援会総会、高専体育大会、漕艇大会などが次々と学校行事が開催実施されています。令和3年の学生会、海学祭、鳥羽丸実行委員会製作の鳥羽丸PVがこの5月にリリースされました。改めて御覧ください³⁾。

皆様におかれては、どうか益々の本校へのご理解とご支援をお願い致します。



1) <https://www.youtube.com/watch?v=7q6TGM14yJs>
 (国立国際医療研究センター病院の大曲貴夫国際感染症センター長 令和2年3月25日)



2) <https://www.jsanet.or.jp/pressrelease/2022/pdf/t20220809-1.pdf>
 (一般社団法人日本船主協会ホームページから 令和4年8月9日ほか)



3) <https://www.youtube.com/watch?v=gMkY3H2qEMs>
 (鳥羽商船高等専門学校 学生会 鳥羽丸PV ~鳥羽丸のすべて~ 2021年12月5日に開催された第56回海学祭にて配信)



練習船鳥羽丸から本校校舎・艇庫地区をのぞむ
 (令和4年8月10日鳥羽丸から撮影)



松下「蘇民の森」の蓮の華

人事

令和4年4月1日より
 副校長と校長補佐を以下としました。

- 副校長（総務・教務担当）教務主事 伊藤 友仁教授
- 副校長（学生支援・厚生補導担当）学生主事 坂牧 孝規教授
- 副校長（寮務・国際担当）寮務主事 橋爪 仙彦教授
- 校長補佐（研究、産学・地域連携担当）研究主事 江崎 修史教授
- 校長補佐（サイバーセキュリティ担当）情報メディア教育センター長 白石 和章教授



伊勢三河湾水先区水先人会

- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 小久保 又五郎 (S38N) | 家田 和良 (S39N) | 池上 義孝 (S40N) |
| 成田 寛太郎 (S41N) | 横山 良一 (S42N) | 小林 司 (S43N) |
| 大野 義和 (S44N) | 池山 薫 (S47N) | 伊庭野 紀弘 (S47N) |
| 中村 道夫 (S47N) | 岩本 正直 (S49N) | 大濱 輝久 (S49N) |

本部報告

令和3年度 本都會務報告

①会議

イ) 理事会 (メール会議)

令和3年6月5日メール理事会

令和3年10月1日発行【同窓会報】にて、報告済

ロ) 総会 コロナ禍の為中止

ハ) 第2回臨時理事会

令和3年11月14日 於名古屋会議室

理事49名中31名 (委任状含む) 参加

協議事項

1 創立140周年事業決算の件…承認

【創立140周年記念事業会計報告】参照

報告事項

1 同窓会設立100周年の件

2 母校創基150周年の件

3 鳥羽商船高専地域連携協力会の件

ニ) 第3回臨時理事会 (メール会議)

令和3年3月15日 理事49名中34名 回答

協議事項

1 母校創基150周年の件

同窓会として500万円を記念事業に寄付…承認

2 同窓会設立100周年の件…次回理事会まで継続審議

②会報発行

令和3年10月8日 会員約3,500名に発送

③事務局主要活動

イ) 令和3年4月16日 総会中止案内発送作業

事務局、伊勢志摩支部会員10名参加

会員約3,600名に発送

ロ) 令和3年 菅沼会長来校

4月23日、6月17日、11月4日、11月19日、

3月10日 事務局打合せ、校長訪問

ハ) 令和3年 戦没・殉職船員追悼式

コロナ禍の為中止

ニ) 令和3年度 故郷の海を愛する会イベント開催

6月11日 故郷の海参加者募集封筒入れ

伊勢志摩支部10名参加

8月4日 JMU津造船所見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海 参加45名

8月19日 【中止】伊勢湾フェリーに乗船し、伊良湖で渥美半島の自然観察をする

10月9日 潮騒の神島に渡り、伊良湖水道の見学と、神島の自然観察をする
参加45名

12月11日 遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話 参加29名

令和4年2月21日

故郷の海を愛する会 川口会長急逝

3月26日 アサギマダラを呼ぶプロジェクトの一環としてフジバカマ植栽

金毘羅宮鳥羽分社と鳥羽大山ズミ神社周辺に鳥羽市民有志と植栽

4月1日 故郷の海を愛する会理事会・総会にて会長に溝井昇氏 (S42E) 就任

ホ) 令和3年 母校創始140周年記念事業

思い出の鳥羽商船CD、DVDの製作作業及び諸手続き、打合せ

昨年より本年迄継続して作業

菅沼会長、事務局、伊勢志摩支部会員

ヘ) 令和3年8月中旬～ 同窓会報発行準備着手

事務局、伊勢志摩支部理事

ト) 令和3年9月23日 卒業式 (本科N、E) 修了式 (海事)

コロナ禍の為 大巾縮小、同窓会参加なし

チ) 令和3年10月8日 同窓会報発送作業

伊勢志摩支部会員、事務局12名参加

リ) 令和3年12月5日 母校海学祭

コロナ禍の為 WEB開催

ヌ) 令和3年12月4日 課外活動支援金・報奨金支給 24.5万円

ル) 令和3年11月14日 令和3年度第2回同窓会理事会

於名古屋会議室

理事49名中31名 (委任状含む) 参加

ヲ) 令和4年3月19日 卒業式 (本科M、I) 修了式 (生産)

コロナ禍の為 大幅縮小、同窓会は菅沼会長のみ出席

ワ) 令和4年3月10日 鳥羽商船高専地域連携連絡協議会発足式 (WEB会議)

菅沼会長、江崎事務局長

カ) 令和4年3月15日 第3回同窓会理事会 (メール会議)

令和4年度 本部会務計画

令和4年4月～令和5年3月

※戦没・殉職船員追悼式は昨年に続き中止決定

4月6日 入学式(本科S、J、専攻科生)

4月 総会案内発送準備発送

5月 理事会・総会案内発送

5月 理事会・総会会議資料作製

6月12日 理事会・総会・懇親会

7月 同窓会報作成準備

8月以降の活動計画

※故郷の海を愛する会 イベント①②はコロナウィルス感染症拡大により中止決定

8月～ 同窓会報編集作業

9月23日 卒業式(本科N、E) 修了式(海事) 参列、同窓会入会案内、手続き

10月8日 故郷の海を愛する会 イベント③『潮騒の神島にわたり、伊良湖水道の見学と、神島の自然観察をする』

10月1日 同窓会報発行

10月15日 攻玉社同窓会総会(5月21日より延期)

12月4日 海学祭支援、同窓会の出店
学生支援報奨金の授与

12月10日 故郷の海を愛する会 イベント④『遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話』
商船学科、工学科の施設見学会並びに講演会を実施予定

3月18日 卒業式(本科M、I) 修了式(生産) 参列、同窓会入会案内、手続き

母校創基150周年・同窓会設立100周年の記念事業について

令和4年8月21日母校において、和泉校長と菅沼会長、田中副会長、加塚副会長、江崎副会長、江崎事務局長、糸川事務局員と意見交換会を行いました。

議題は母校創基150周年と同窓会設立100周年の記念事業について。

母校校長よりキャンパスマスタープラン、創基150周年記念基金の説明が行われました。

1. 令和7年の新練習船の就航に合わせて係留棧橋の新替え、続いて暁寮横に国際寮の新設、艇庫の新替えも計画されています。
2. 鳥羽商船連携協力会を創設し産学官連携体制を強化します。

3. 同窓会組織との連携を強化します。
 - 練習船利用の小中学生への海へのいざない
 - 同窓会総会への教員参加
4. 鳥羽商船創基150周年、高専創立60周年記念事業基金を創設します。

基金目的

(1) 記念行事等実施経費

記念事業

- 案1 100周年記念館資料室をマリタイムミュージアムとして整備改修
- 案2 他商船高専練習船を鳥羽港に招請
- 案3 帆船、客船を鳥羽港に招請
- 案4 鳥羽港 伊勢湾フェリー前から赤崎海岸前までの間でカッター大会(60年ほど前まで開催されていた) …同窓会提案
- 案5 旧帆船練習船天城模型の修復 …同窓会提案

(2) 学生の就学支援

(3) 教育研究支援

(4) 地域貢献支援

(5) その他事業

基金の期間 令和7年9月30日まで

同窓会会員の皆様に基金へのご協力を頂きたく、この記念事業基金の趣意書と寄付申込書を同窓会報に同封させていただきます。

5. 式典日時 令和7年9月13日(土)、14日(日)、15日(月・祝)の何れか
(1875年(明治8年)9月14日
創業者 近藤真琴先生がわが国最初の航海測量習練所(商船学校)を設置した日に因む)
6. 式典場所 鳥羽市民体育館 サブアリーナ(予定)
7. 懇親会会場 鳥羽国際ホテル(予定)
8. 当日の開催表題

鳥羽商船高専創基150周年記念 －高専創立60周年・同窓会設立100周年記念－

等の内容が話し合われ、母校記念事業各作業部会には同窓会からのオブザーバー参加をお願いし終了いたしました。



東京湾水先区水先人会

坂崎 清 (S40N)
飯野 実 (S44N)
藤本 良夫 (S51N)

中川 敏 (S40N)
石川 富朗 (S47N)
木場 弘幸 (S53N)

三村 徳蔵 (S40N)
高木 春男 (S49N)

令和3年度 会計報告

自 令和3年4月1日 ～ 至 令和4年3月31日

現金・預金

※比較増減＝期末－期首

勘定科目	期首金額	収入	支出	期末金額	比較増減
現金	0			0	0
普通預金計	4,723,155	19,175,941	22,078,225	1,820,871	-2,902,284
定期預金計	21,375,169	568	0	21,375,737	568
現金・預金合計	26,098,324	19,176,509	22,078,225	23,196,608	-2,901,716

※収入支出の金額は振替入金の金額が含まれており実際の入出金額より大きい金額になっています。

収入の部

※比較増減＝決算金額－予算

科目・内訳	3年度予算	決算金額	比較増減
会費	2,816,000	2,776,211	-39,789
寄付金収入	2,460,000	1,850,800	-609,200
スポンサー広告収入	220,000	220,000	0
雑収入	3,079,000	1,854,000	-1,225,000
受取利息	1,038	593	-445
預かり金処理 (会費・名簿等)	0	13,000	13,000
前年会計より繰り越し	2,069,033	2,069,033	0
前年会計より繰り越し (預金の取り崩し)	285,949	832,683	546,734
収入合計	10,931,020	9,616,320	-1,314,700

支出の部

科目・内訳	3年度予算	決算金額	比較増減
負担金	650,000	355,770	-294,230
総会費	1,760,000	334,166	-1,425,834
会報・会員名簿	950,000	818,057	-131,943
対外活動費	231,000	184,000	-47,000
支部活動費	542,000	592,000	50,000
旅費交通費	500,000	181,000	-319,000
事務消耗品費	293,000	203,776	-89,224
会議費	60,000	46,073	-13,927
会務運営費	397,020	363,272	-33,748
外部委託費	600,000	600,000	0
特別予算1 (本校紹介活動等)	200,000	0	-200,000
特別予算2 (母校支援)	250,000	200,000	-50,000
特別予算3 (プロコン等支援)	100,000	0	-100,000
特別予算4 (140周年記念事業)	4,278,000	5,451,670	1,173,670
雑支出	120,000	286,536	166,536
支出合計	10,931,020	9,616,320	-1,314,700

※昨年と本年度の決算は、令和2年から令和3年に至り行われた140周年記念事業の収支が含まれています。昨年度は、140周年記念事業の寄付金が、2,069,033円本年に繰り越されており。昨年11月の理事会報告の140周年記念事業の収支は30,048円の黒字ですが、令和2年の140周年記念事業実施前の資産と今年度期末の資産を比較すると、832,683円の減少となりました。

令和3年度期初、期末の銀行等の残高証明の確認を行い、今年度の収支に関しては領収書、各銀行などの出納記録と照合して監査した結果、正確かつ適正であったことを認めます。

令和4年5月10日

会計監査 武部二三男

会計監査 竹川 俊幸

創立140周年記念事業 会計報告

収入の部

項目	収入額
他商船学校 DVD/CD制作の協賛金	1,200,000
個人寄付 林前校長	100,000
同窓生寄付金 令和元年	300,000
// (振込) (R3年10月19日まで)	4,697,800
// (現金) (R3年10月19日まで)	300,000
弓削商船増版追加分	1,210,000
広島商船増版追加分	317,300
富山商船追加分	26,400
コピーガード追加分 (大島を除く3校)	82,500
合計	8,234,000

支出の部

支払先	項目	支払額	小計
中村石材	皇太子殿下下行啓記念碑 着手金	600,550	
	同上 残金	1,500,000	2,100,550
北条造園	近藤真琴翁記念碑 修繕案内板追加他	830,550	830,550
ティク レコード	補償金	383,680	383,680
JASRAC	録音物許諾金 5商船校分を含む	209,592	209,592
文化庁	申請書代、申請書送料、 供託金	438,079	438,079
音の輪 関係	河芸打合せ、四日市録音 打合せ	6,806	
	CD音源費	1,203,790	1,210,596
伊勢 コーラス 関係	笠井氏謝礼、ホール賃料、 リハーサル等諸経費	264,506	
	合唱費、録音編集費 (笠井氏秋田氏振込)	473,472	737,978
学生制作費	ビデオ編集代金	300,000	300,000
著作権情報 センター	著作権探し広告費	17,050	17,050
諸経費	ICレコーダー、SDカー ド、交通通信費等	142,232	142,232
DVD/CD の制作費	千巻印刷コピー制作費 (複製防止費含む)	1,833,645	1,833,645
	合計		8,203,952

収入－支出 30,048



大阪湾水先区水先人会

田中 忠士 (S38N) 河口 長弘 (S40N) 南方 日出一 (S40N) 藤本 昌之 (S42N)
 鹿野 秀治 (S48N) 小山 道夫 (S49N) 山本 隆史 (S52N) 山本 丈司 (S54N)
 習田 誠至 (S55N) 濱地 義法 (H4N) 蛸積 史丸 (H12N)

令和4年度 予算

自 令和4年4月1日 ～ 至 令和5年3月31日

収入の部

比較増減=令和4年予算-前年実績

科目・内訳	3年度収入実績	4年度予算	増減比較
会費	2,776,211	2,776,211	0
寄付金収入	1,850,800	1,500,000	-350,800
スポンサー広告収入	220,000	180,000	-40,000
雑収入	1,854,000	967,500	-886,500
受取利息	585	585	0
預かり金処理 (会費等)	13,000	0	-13,000
預金取り崩し	2,901,716	672,704	-2,229,012
収入合計	9,616,312	6,097,000	-3,519,312

※収入合計は、140周年記念事業の終了により対前年より減少

支出の部

科目・内訳	3年度支出実績	4年度予算	増減比較
負担金	355,770	550,000	194,230
総会費	334,166	1,560,000	1,225,834
会報・会員名簿	818,057	920,000	101,943
対外活動費	184,000	234,000	50,000
支部活動費	592,000	542,000	-50,000
旅費交通費	181,000	535,000	354,000
事務消耗品費	203,776	245,000	41,224
会議費	46,073	50,000	3,927
会務運営費	363,272	371,000	7,728
外部委託費	600,000	630,000	30,000
特別予算1 (本校紹介活動等)	0	130,000	130,000
特別予算2 (母校支援)	200,000	0	-200,000
特別予算3 (プロコン等支援)	0	100,000	100,000
特別予算4 (140周年記念事業)	5,451,670	0	-5,451,670
雑支出	286,536	230,000	-56,536
支出合計	9,616,320	6,097,000	-3,519,320



令和4年度 同窓会役員・理事

※ 黄色は新任

※ 灰色は退任

※ () 内数は前回数

本部

会長	1	菅沼 延之	S48N						
副会長 (3)		田中 潔	S52N	特別顧問 (3)		和泉 充	学校長		
		加塚 伸吾	S52E			伊藤 友仁	副校長		
		江崎 修央	H4M			小林 正幸	事務部長		
相談役 (5)		桑嶋 収平	S31N	事務局 (9)	事務局長	1	江崎 隆夫	S44E	
		菅原 昌男	S33N				溝井 昇	S42E	
		松浦 肇	S36N				三井 健次	S43E	
		藤本 昌之	S42N				濱地 安実	S47E	
会計	1	西山 明	S50E				山口 伸輔	S48N	
会計補佐	1	中井 一文	H16I				9	江尻 潜	S48E
会計監査		2	武部二三男			S38N		木下 勝	S49E
			竹川 俊幸			S42E		西山 明	S50E
名誉顧問 (3)			落合 弘明			元同窓会長		畑 辰幸	S51N
			菱田 司	元同窓会長		北端 大志	H8N		
			田中 三郎	前同窓会長	学校連絡	1	小島 智恵	H14N	

支部 (理事総数49名)

東日本支部 11(11)			伊勢志摩支部 16(16)			
支部長	水野 博之	S48N	支部長	三井 健次	S43E	
支部長	福山 道夫	S41N		溝井 昇	S42E	
理 事	岩田 仁	S38E		江崎 隆夫	S44E	
	福山 道夫	S41N		濱地 安実	S47E	
	飯島 寿	S41E		山口 伸輔	S48N	
	大橋 泰夫	S48N		木下 勝	S49E	
	水野 博之	S48N		西山 明	S50E	
	奥田 宣夫	S48E	理 事	畑 辰幸	S51N	
	菅原 秀樹	S51N		塩野 明俊	S56E	
	稲益 義久	S51N		齋心 俊憲	H1N	
	星野 芳昭	S52E		出江 幸重	H3M	
	亀山 信吾	H1E		江崎 修央	H4M	
	小西 智子	H16N		北端 大志	H8N	
中部支部 6(6)				橋本 典久	H8E	
支部長	山口 淳	S61N		小島 智恵	H14N	
理 事	小林 正司	S43N		中井 一文	H16I	
	宗接万太郎	S48N	関西支部 8(8)			
	菅沼 延之	S48N	支部長	習田 誠至	S55N	
	加塚 伸吾	S52E		村木 国夫	S48N	
	山川 博之	S53N		田中 潔	S52N	
四日市支部 6(6)				村田 佳久	S55N	
支部長	待井 健司	H2N	理 事	国安 政幸	S58N	
理 事	室 博也	S55N			山本 和之	S59N
	西井 育央	S61E			清家 将之	S60N
	伊藤 英樹	H4E			福田 美和	H7N
	相良 球一	H6N		西日本支部 2(2)		
西村 崇	H6I	支部長	中野 正義	S41N		
			理 事	神子 功	S48E	



内海水先区水先人会

本山 幹夫 (S38N)
青山 保 (S42N)

島田 愛水 (S42N)
谷口 誠 (S56N)

武藤 兼廣 (S42N)
大濱 啓司 (S60N)

同窓会の活動 (暦順に掲載)

渡り蝶アサギマダラがやってきた

昨年から、「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」が始まった。

10月8日15時頃にわかに「100周年記念館」前が慌ただしくなり、数人がスマホでの撮影会を始めた。十数個のプランターで育てた赤と白のフジバカマに、待望のアサギマダラが飛来したのだ。

南の国への旅の途中である。(この蝶は昨年飛来した蝶の孫に当たる世代である) 蜜を吸い体力を蓄え仲間を待ち、かつての船乗りが潮を待つように、天気・気温・風向きにより再び旅立ってゆく。

どうか無事に目的地に到達して欲しいと祈らずにはいられない。

今年の第一発見者は、奇しくも昨年と同じ人であった。花を愛で自然を愛し穏やかで、きっと心優しい人に違いない。

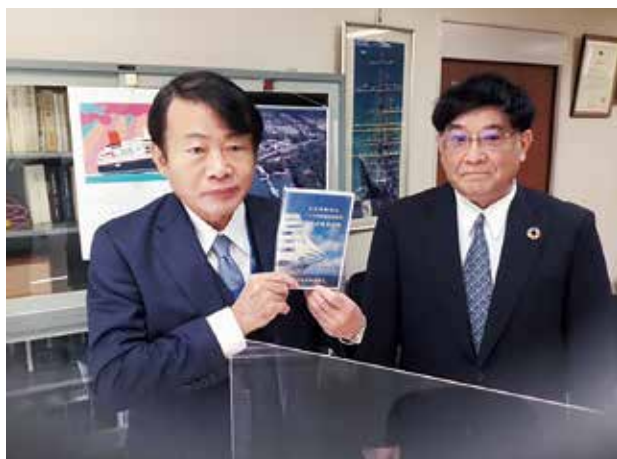
同窓会伊勢志摩支部長 三井健次 (85期)

140周年記念事業船歌集母校に贈呈

11月4日母校、和泉校長に140周年記念事業で製作された、船歌集が菅沼会長から贈呈されました。

この歌詞付きのCD、DVDを後輩達が後世に伝えてゆけば、同窓会の船歌集製作に携わった人でなく、同窓会としても歡びに堪えません。

後輩のみなさん鳥羽商船の伝統を伝えて下さい。



課外活動支援金、報奨金 授与式

12月4日海学祭の日に今年も学生達に学生会、吹奏楽部、カッター部に課外活動支援金、高専全国大会で優秀な成績を受賞した学生達に報奨金を授与しました。

菅沼延之会長、三井健次伊勢志摩支部長の代理で、江崎隆夫事務局長、西山明会計、木下勝理事が出席しました。学校からも先生方が出席されました。

今年の海学祭はYouTube配信で保護者に伝えられた様です。

コロナ禍、若い学生達は負けず頑張っています。同窓会は、学生たちを応援しています。



令和三年度卒業式 (M・I科)、修了式 (生産) 令和4年3月19日 (土)

第33回 電子機械工学科、第30回 制御情報工学科卒業式、第16回 専攻科 (生産システム工学科) の修了式が挙行されました。

今回もコロナ禍、例年より大幅に縮小されましたが、3年ぶりに来賓が招待されました。同窓会からは菅沼同窓会長が出席し、卒業生に向けて熱い祝辞を贈りました。式の様子は別室で待機の保護者、在校生、そして自宅などへライブ配信され式の様子を見学されました。

コロナのせいで精一杯楽しめなかった学生生活であったかもしれませんが、この経験が社会へ出ていつかは役立つことがあると思います。

ガンバレ…若鳥たち…大きく社会へ飛び立て…



和歌山下津水先区水先人会

畑 辰幸 (S51N) 清水 貢 (S56N)



鹿島水先区水先人会

郡 茂典 (S50N) 大原 智喜 (S57N)

卒業生の進路は電子機械工学科37名中、就職27名、進学10名。制御情報工学科46名中、就職34名、進学12名。専攻科就職10名で今年も全員の進路が決定しました。

我が母校は工業系、商船系に求人の応募社は550社近くを数え、企業からも人気の学校です。

同窓会も君たちを応援します。

困った時があれば同窓会へも相談してください。

同窓会は君たちを待っています。

本年度 総会のご案内

4月19日同窓会総会案内を住所判明している約3,500名の同窓会員に送りました。

今年の総会は3年ぶりに対面で、母校鳥羽にて6月12日に開催いたします。

コロナ対策は十分行っただうえで開催しますが、今後感染状況が悪化し、やむなく中止になった場合はこのホームページで全員に周知させていただきます。



鳥羽商船同窓会 理事会・総会・懇親会 3年ぶりに開催

6月12日(日)快晴の元、母校にて3年ぶりに開催しました。長引くコロナ禍ではありましたが、With Coronaの中、感染予防に注意しながら開催しました。

各会の出席数は、理事会25名、総会54名、懇親会61名で、計63名の同窓の皆様に参加していただきました。

総会の承認と決議事項については、秋の同窓会報において皆様に周知させていただきます。

懇親会の来賓には、鳥羽市選出の野村県議、伊勢市選出の同窓でもある廣県議、鳥羽市小竹教育長、母校からは和泉校長、伊藤副校長、坂牧副校長、小林事務部長、窪田学科長、鈴木主任、同窓の母校教

職員からは齊心(H1N)、出江(H3M)、江崎(H4M)、山野(H10E)、小島(H14N)、中井(H16I)、山口(H20M)の皆様。学生会、寮生会から8名の若い後輩に参加していただきました。

校長から、3年後の母校創基150周年に同窓会からの多額の寄付の謝礼と、令和7年に新練習船の就航も予定されており、同窓会設立100周年の式典と共に催したいとお話がありました。

懇親会のアトラクションは、140周年記念船歌集『思い出の鳥羽商船』の製作に協力戴いた笠井幹夫さん主宰の伊勢音楽劇場の皆様に懐かしい歌声を披露して頂きました。船歌・校歌等 DVDに写された写真と歌詞を見ながら郷愁に浸り、きれいな歌声を充分堪能し、感動のひと時を終えました。

最後は来年開催地、東日本支部、水野支部長の万歳三唱で締めくくりました。



伊勢三河湾水先区水先人会

田中 俊彦 (S50N)
町 裕次 (S52N)
西濱 卓己 (S54N)
門奈 克明 (S62N)

鶴飼 幹夫 (S52N)
森内 芳卓 (S52N)
増島 忠弘 (S54N)

畑内 康孝 (S52N)
鈴木 晴敏 (S54N)
原 秀男 (S56N)

鳥羽商船同窓会伊勢志摩支部の有志が立ち上げた「故郷の海を愛する会」は子供たちにもっと世界につながる船や海を知ってもらうために活動を開始しました。今年度の活動で開始して14年目になります。

参加者は年々増加傾向にありますが主催者側の高齢化が進んでいますのでイベントの内容もボランティアのできる範囲の活動になりそうです。足腰の丈夫なボランティアの参加を募集しないと神島・伊良湖海岸の自然観察など無理になってきそうです。

昨年の活動は4回計画しましたが、コロナの影響で1回は中止としました。今年度はコロナ禍での実施になると思いますが、感染防止対策をしっかりと行い4回の活動を実施したいと思っています。

令和3年度事業報告

◇活動について

昨年と同様に新型コロナの影響を受け計画していた4回の事業の内、第2回イベント「伊勢湾フェリーに乗船し、伊良湖で渥美半島の自然観察をする」は、他県に移動することになるので中止となりました。あと3回のイベントは計画通り実施しました。内容は下記に示す通りとなっています。

活動その① 8月4日実施 JMU津造船所見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海

鳥羽商船高専とJMU津造船所に計45名の小中学生が集合し8班に分かれて活動しました。

「練習船鳥羽丸」に乗船し体験航海を楽しんでもらうとともに、操舵室、エンジンコントロールルームで、航海計器、船を動かすエンジンのしくみについて学びました。また、造船所では船の構造、船が建造されるまでの工程について学びました。

活動その② 伊勢湾フェリーに乗船し、 伊良湖で渥美半島の自然観察をする

コロナの影響により中止しました。

活動その③ 10月9日実施 潮騒の神島にわたり、伊良湖水道の見学と神島の自然観察をする

小中学生45名とスタッフ15名は鳥羽市の鳥羽マリターミナルに集合し、連絡船で神島にわたり、歩いて島を一周しました。暑い一日となりましたが、神島灯台や監的哨跡から伊良湖水道を眺め、遊歩道では海を渡る蝶アサギマダラを探し、カルスト地形など自然を観察しました。

活動その④ 12月11日実施 もうすぐクリスマス！遊んで学ぼう、 商船学校の歴史と船と海

小中学生29名とボランティア十数名が参加しました。活動に際し鳥羽商船高専には全面的な協力を頂きました。

朝9時50分に百周年記念館の前に集合し、「校祖近藤真琴物語」の講演を聞いたり、チャレンジ体験学習を行ったりして鳥羽商船の特徴を学び子供たちにとっては忙しい一日であったと思います。

その他の活動として「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」「セイラビリティ伊勢」の活動を応援・協力しました。



◇収支について

令和3年度に開催した事業には、日本中小型造船工業会、日本船主協会、日本海事広報協会、全日本海員組合、山縣記念財団から助成金、また、鳥羽商

船同窓会、同窓会伊勢志摩支部、会員の皆様から寄付金を頂き3回の事業を無事開催することが出来ました。同窓会、会員の皆様にお礼を申し上げます。

事業収支を下記の通り報告いたします。

収 入	金 額	支 出	金 額
受取会費	64,000	事業費	1,135,157
事業収益	89,000	管理費	347,958
受取寄付	380,000		
受取助成金	1,034,000		
その他	3		
合 計	1,567,003	合 計	1,483,115
		当期正味増額	83,888
		前期繰越額	365,277
		次期繰越額	449,165

令和4年度の活動について

2022年度の活動計画は「海から始まる物語 IN 2022」と題し、以下の活動を計画しています。

今年の活動はコロナ感染状況を見ながら進めたいと考えています。したがって活動範囲を感染拡大に伴う影響が少ない県内にとどめコロナ感染防止対策を十分に行ってすべての活動を実施したいと思っています。

第1回イベント 8月3日

JMU津造船所見学と

鳥羽商船高専の練習船で体験航海

津市と鳥羽市で集合し、JMU津造船所で大型船の建造工程を見学し、船の大きさを体感する。又、鳥羽商船高専の練習船に乗り、伊勢湾体験航海をして、航行する大型船を近くで見る。船上では船の設備、構造、機関等の説明を受け、ロープワーク等を体験する。

第2回イベント 8月25日

四日市港と火力発電所見学

津市と鳥羽市で集合し、バスで四日市市に移動。四日市港では、四日市港ポートビルのうみテラス14の見学と火力発電所と電力館を見学する。

第3回イベント 10月8日

潮騒の神島にわたり、伊良湖水道の見学と神島の自然観察をする

鳥羽市で集合し、市営連絡船で神島に向かい、灯台から伊良湖水道を通航する大型船を眺め、神島を歩いて一周し、渡りをする蝶アサギマダラを探す。

第4回イベント 12月10日

遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

鳥羽商船高専の校内で、船や海の講演を聞き、模擬操船体験や大型機関の発停を体験する。他にコンピュータ・ロボットなどの講演を聞き、ロボットやアプリの体験をする。

◇終わりに

募集人数を昨年と比べて半数としたので多数の方が参加できなかったと思います。コロナ禍での開催になりますので仕方なく主催者としては残念です。前年度より3市町村を加えて募集した結果その地域より募集があったのでますます「故郷の海を愛する会」の輪が広がっていきそうです。

最後になりますが訃報をお知らせしなくてはなりません。発足当初から同窓生、ボランティアスタッフを纏め導いてこられた川口会長が2月下旬に急逝されました。会長の遺志を引き継いでこの会を存続させ、新しく選出された役員で今年度の事業を進めてまいります。

同窓会皆様のご協力とご支援を感謝しております。

◇会員募集中

故郷の海を愛する会は子供たちにもっと世界につながる船や海を知ってもらおうと活動を続け13年となりました。今後とも継続して活動を行えるよう、私たちの活動に賛同し、協力していただける方を募集中です。会のブログをぜひご覧ください。正会員は年会費1,000円です。また、ご寄付も受け付けています。

会費などの振込先：ゆうちょ銀行 鳥羽支店

当 座：00830-9-183524

口座名称（漢字）：

特定非営利活動法人 故郷の海を愛する会

口座名称（カナ）：

トクビ）フルサトノウミヲアイスルカイ



活動ブログ

<http://blog.canpan.info/umiwoaisurukai/>



団体情報

<https://fields.canpan.info/organization/detail/1882169442>

学校だより

年間行事(暦順に掲載)

第50回商船学科卒業証書授与式並びに 第14回専攻科(海事システム学専攻) 修了証書授与式を挙

令和3年9月23日(木)、第50回商船学科卒業証書授与式並びに第14回専攻科(海事システム学専攻)修了証書授与式を挙

行了しました。
新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、規模を縮小しての開催となりました。

和泉校長より、商船学科卒業生33名に卒業証書、専攻科(海事システム学専攻)修了生2名に修了証書が手渡され、「自信と信念をもって前進してください。Have faith in yourself.」と激励の言葉が送られました。式の最後に、白い制服姿の卒業生全員が一列に並び、保護者に向かって「ごきげんよう」と挨拶し、帽子を宙高く投げる伝統の別れのパフォーマンス(登壇礼)を行い、晴れ晴れとした姿で学舎から巣立っていきました。



第33回電子機械工学科及び 第30回制御情報工学科卒業証書授与式 並びに第16回専攻科(生産システム工学専攻) 修了証書授与式を挙

行了しました。
令和4年3月19日(土)、第33回電子機械工学科及び第30回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第16回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式を挙

行了いたしました。
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、式典会場への入場は卒業生・修了生、来賓、学校関係者に限定し、保護者のみなさまにおいては、別会場

式典では、和泉校長より各学科の代表者それぞれに証書が授与された後、「これからの人生、良いこともあれば難しい問題にぶつかることもあります。みなさんはひとりではない。今日ここに集まっている卒業生の友人、保護者、教職員の方々、先輩や後輩たちと絆をしっかりと結んでください。」と式辞が送られました。

卒業生、修了生は鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



令和4年度本科並びに 専攻科(生産システム工学専攻)入学式を挙

行了しました。
令和4年4月6日(水)、令和4年度入学式を挙行了いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、出席者は新入生と式典関係者のみと限定し、保護者のみなさまにはライブ配信で別室にて式典の様子をご覧いただきました。

今年度は、商船学科40名、情報機械システム工学科80名、情報機械システム工学科4年次編入生1名、情報機械システム工学科3年次編入の留学生1名、合計122名の新入生と専攻科生産システム工学専攻に9名の進学者を迎えました。

和泉校長より「人はお互いの支えがなければ生きられません。私たち人間には、それぞれ個性があります。日頃のクラスにおいても、それぞれの得意なところを互いに認め、理解し助け合ってください。また、自分自身の将来の目標、すなわち「志」をたて、ぶれない・諦めないで「志」に向かって努力してください。」と式辞が述べられた後、商船学科の新入生代表と専攻科生産システム工学専攻の進学者代表それぞれから新しいスタートにあたっての抱負が述べられました。



本社/広島県呉市
事業所/仙台・埼玉・名古屋
大阪・神戸・岡山
米子・高松・広島
下関・福岡、他77ヶ所

本社 〒737-0051
広島県呉市中央1丁目6-9
TEL/0823-24-2727
http://www.muroo.co.jp

山下 文徳(S41E・83期)

各種コンテスト

第32回全国高専プログラミングコンテストの課題部門にて、最優秀賞、優秀賞を受賞！

令和3年10月9日(土)～10月10日(日)にオンライン開催された第32回全国高専プログラミングコンテストにて、本校の出場チームが課題部門にて最優秀賞、優秀賞を受賞しました。受賞作品については、以下のとおりとなります。

【課題部門】

「楽しく学び合える！」がテーマの作品

【最優秀賞】

「学魚養殖 - 遠隔で養殖について学び、地域産業を体験し理解する -」

三重県南部で盛んなマダイ養殖を対象に、遠隔から小中学生が給餌体験、魚体サイズ測定、へい死発見などをお手伝いするアプリです。

【優秀賞】

「SEN-KEN」

スポーツの予測能力を向上させるクイズをするアプリです。



AIビジネス創出アイデアコンテストで人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞！

令和4年2月15日(火)にオンライン開催された「AIビジネス創出アイデアコンテスト」にて、本校学生チームが出場し、人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました。

本コンテストは、大阪商工会議所と国立研究開発法人 産業技術総合研究所の人工知能技術コンソーシアムが主催となり、人工知能(AI)技術を活用した新ビジネスの創出を支援するため実施されているものとなります。

本校の制御情報工学科、情報機械システム工学科の学生によるチーム【白石・近藤LAB】は、「野菜のサステイナブルスマート農業!!」というテーマで応募し、書類審査を経たファイナリスト7者選ば



れ、公開プレゼンテーションを行ったのち、2位相当の人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました。

地域活動・地域貢献

練習船「鳥羽丸」体験航海を実施しました

令和3年10月23日(土)に、練習船「鳥羽丸」体験航海を実施しました。当日はのべ41名の中学生とその保護者の方にご参加いただきました。当日は強風のため残念ながら出港はできませんでしたが、船橋見学や機関室見学を実施し、船長・機関長、本校学生と中学生およびその保護者と懇談しました。参加者に皆様にとって実際の実習環境を目にし、学生の様子を見ることのできる機会となりました。

詳しい様子は練習船鳥羽丸のFacebookをご覧ください。

<https://www.facebook.com/tobamaru.jp/>

教職員人事

採用

情報機械システム工学科	児玉 謙司
一般教育科	朴 佳南
総務課財務・経理係	増井 康太

転入

事務部長	小林 正幸
総務課調達係長	喜多村勝代
総務課課長補佐(併) 総務係長	前田 剛
総務課人事労務係主任	堀川 洋平

同窓生の本校教職員

齊心 俊憲 (H1N)	鳥羽丸船長
大野 伸良 (S56E)	鳥羽丸機関長
山野 武彦 (H10E)	鳥羽丸一等機関士
小島 智恵 (H14N)	商船学科准教授
出江 幸重 (H3M)	情報機械システム工学科教授
江崎 修央 (H4M)	情報機械システム工学科教授
中井 一文 (H16I)	情報機械システム工学科准教授
竹内 晃輔 (H7I)	学生課学生生活係
谷水 志帆 (H16N)	テクノセンター技術職員
吉岡 裕也 (H16E)	テクノセンター技術職員
濱口 沙織 (H17I)	テクノセンター技術職員
山口 雄大 (H20M)	テクノセンター技術職員
井田 雄人 (H22M)	テクノセンター技術職員
三重野崇亮 (H23I)	テクノセンター技術職員
金子 将也 (H22E)	鳥羽丸技術職員

支部だより

東日本支部 支部長 水野 博之 (S48N)

今年、1月より東日本支部長の任につきました水野です、よろしくお願ひします。さっそく、3月に理事会をオンラインで開催し、今後の活動について検討し、5月の横浜カッターレース参加、10月の支部総会を決定しました。

5月22日横浜港でのカッターレースに、本校から2艇が出走しました。

また、役員に2名の要請がありましたが、選手に有力な方が出場されたため、私と加藤先輩がスタート役員として、終日ポンツーン上で過ごしました。出場各艇の意気込み、纏まりを身近に感じましたが、特に鳥羽商船2艇のスマートな各自の姿に、遙か昔に本校で受けた教育が今に活かしているなど感心しました。成績は決勝に進むには、数段の努力を要する結果となりました。

6月開催の本部総会で、次年度開催が東京と決定しました。総会後の懇親会で、最後の締めを次回開催担当の東日本支部長にとご指名があり、万歳三唱をいたしました。オリンピックの閉会式のようなと思ひながら、責任の重さを感じました。

支部総会については、7月開催の対面理事会で、10月15日(土)12時からナビオス横浜で開催と決定しました。案内は8月末頃から、メールあるいは郵送にてお送りしますので、多くの方のご参加をお願ひします。

引き続き、支部活動へご協力のほどよろしくお願ひします。

中部支部 支部長 山口 淳 (S61N)

昨年6月より支部長を引き継ぎ、早いもので1年が経過いたしました。若干の変化を見せつつも依然続くコロナ禍の為に、同窓会の活動は昨年に引き続き残念ながら殆どできませんでした。その状況下でも令和3年11月には恒例の懇親ゴルフコンペを開催することができました。加えて令和4年2月練習船銀河丸が名古屋港への寄港の際、本船側より断られてきた飲料の差入れが受け入れられました。依然東海3県下において日々合計で1万5千人を超える感染者がある中でも、コロナ感染症に対する風向きが

変わり、活動できる範囲が少しずつ広がりつつあります。本部の総会も今年は久しぶりに開催され誠に嬉しい限りです。このままコロナ感染症の感染拡大が完全に終息に向かわずとも、ウィズコロナが定着し以前の生活に戻る事を切に願ひします。

令和3年度活動報告

令和3年5月 中部支部総会 ⇒ 開催中止

令和3年5月 懇親ゴルフコンペ ⇒ 開催中止

令和3年11月6日 第46回懇親ゴルフコンペ

参加者12名 於：三鈴カントリークラブ

優勝 山口 淳 (S61N)

第2位 町 裕次 (S52N)

第3位 西尾 栄紀 (S58N)

令和4年2月 めいよう会 (全船協・海洋会・若葉会 合同懇親会) ⇒ 開催中止

令和4年2月16日 練習船銀河丸 飲料差し入れ

四日市支部 支部長 待井 健司 (H2N)

同窓会会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度の支部役員会及び支部総会については、いまだ新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立っていない状況を鑑み、皆様の安全を第一に考慮しました結果、誠に残念ではありますが、中止させていただくことといたしました。(書面決議により決定)

一方で、四日市港では、新型コロナウイルス感染症のため、令和元年以降開催が中止となっていた「四日市港まつり」が、3年ぶりとなる8月7日(日)に開催されます。

今回は四日市港開港123周年を記念して、「カッターレース大会」を中心に各種イベントが予定されており、鳥羽商船OBをはじめとする運営スタッフが一丸となって開催に向け準備を行っているところです。

なお、これまで港まつりに毎回来港いただいていた母校練習船「鳥羽丸」はスケジュールが合わず、残念ながら来港はかないませんでした。次回また来ていただけることを楽しみにしております。

また、8月25日(木)には、「故郷の海を愛する会」のイベント「四日市港見学と火力発電所見学」が四日市港で開催される予定です。四日市支部としても全面的に協力し、イベントに参加される子供たちに、少しでも船や海の魅力をお伝えするお手伝いできればと考えております。

現在、新型コロナウイルス第7波が到来し、全国各地で変異株BA.5が猛威を振るうなか、ご紹介しましたイベントも開催が危ぶまれるところではありますが、コロナ禍が一刻も早く終息することを願うばかりです。

最後に、会員の皆様のご活躍を祈念して、四日市支部の活動報告とさせていただきます。
(補足) 8月25日「故郷の海を愛する会」のイベント「四日市港見学と火力発電所見学」は中止となりました。

伊勢志摩支部 支部長 三井 健次 (S43E)

令和3年度伊勢志摩支部活動の報告

1. 同窓会定期総会は東京会場で予定されたが、コロナ禍により中止となりメール会議に変更された。
2. 商船学科卒業式(2021/9/23)及び工学科卒業式(2022/3/19)は新型コロナウイルス感染対策の為大幅に縮小し挙行された。伊勢志摩支部からの出席は無かった。
3. NPO法人故郷の海を愛する会の運営イベントに積極協力した、活動の一環である、「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」を推進。フジバカマ苗木をプランター15個で育成し、記念館玄関に設置し紹介した。数頭が飛来し、会員が育成した畑には延べ66頭のアサギマダラが飛来した。鳥羽ライオンズクラブから苗木株分けの依頼があった。
4. 同期会開催奨励金制度利用は、コロナ禍の影響により皆無であった。
5. 伊勢志摩支部懇親会開催を計画したが、コロナ禍により中止となった。

令和4年度の活動計画

1. 同窓会定期総会(6月12日鳥羽開催予定 懇親会鳥羽国際ホテル)
2. 卒業式出席 卒業生同窓会会費納入促進プレゼンを行う。(2回)(コロナか終息すれば)
3. NPO法人故郷の海を愛する会への協力。今年度末に同会が赤字となった場合多少の助成金支給に応じる。
4. 校祖近藤真琴翁の業績を地域の人に知ってもらう活動の一環として。目的を同じとする団体に協力し積極的に進めていく。
5. 「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」今年度もフジバカマ苗木を15個のプランターに株分け育成

し、記念館前に設置する。

6. 帆船模型「天城」修復を計画し来る創基150周年記念事業のひとつとしたい。
7. 同期会開催奨励金制度は継続するが、今年度は鳥羽開催総会後の懇親会参加費補助金として参加費の半額を参加者50名に補助する。
8. 海学祭への助成金¥50,000を計上した。
コロナ禍沈静化し通常の海学祭となれば、模擬店出店を計画している。

関西支部 支部長 習田 誠至 (S55N)

コロナ禍のため、集会開催ままならず、支部としての活動はありません。

状況を見ながら徐々に活動再開しようと思います。

西日本支部 支部長 中野 正義 (S41N)

至って広域ではありながら、支部会員数が至って小規模なのが当支部の特徴ではありますが、コロナ禍に於ける現在に至る活動計画と、本年度以降の活動予定に付き、次の通り、報告致します。

【現在の活動計画】～前回の原文通り～

極めて長期にわたるコロナ禍も“ラムダ”なる変異株まで出現し、当支部に於いても遺憾ながら、あらゆる行事の計画が立てられない状況になっています。例年6月～7月開催していた支部総会も中止となりました。

我々事務局は勿論ですが、毎年参加頂いている諸先輩・皆様方々も、霧笛が聞こえる“下関海峡ビューホテル”での支部総会・懇親会を待ち望んでおられることと想います。現在の状況から好転することを願いながら、可能な限り、本年度での開催を目標にしたいと考えております。その節は案内状を出しますので、多くの方々に参加されることを、切に希望致します。

*しかしながら、支部理事会において、数度に亘り検討しましたが、全て実行は出来ませんでした。

【計画】

6月4日に支部理事会を開催し、この時点ではコロナ禍も小康状態になりつつあり、又2年間も休業状態の支部総会・懇親会は何とか今秋(本年11月頃)に開催出来るように検討を開始していますが、最近の感染者急増の状況を踏まえて、判断するように致します。

又、来年1月には福岡・天神での“新年会”開催の運びとなるように尽力いたします。

投稿記事

国立八期生の…クラス会あれこれ



昭和33年（1958年）に入学した私たち国立八期生、航機60名の中で卒業後15年程したころより随意に交流の機会を持っておりました。75歳を過ぎたころ母校のある鳥羽で開催後は関東、中京、関西地区で続けようと言う事になりました。今は関東地区18名、中部地区11名、関西地区6名程の構成で続いています。関東地区でのクラス会は2012年からは明治神宮に隣接している代々木倶楽部に会場を得てから定着し、コロナ禍により中止せざるを得なかった2020年を除いて毎年続いています。

最近の“ヒューマニエンス”というNHKの科学番組の中で“人は成長期に長く寝食を共にすると腸内の細菌を組成するDNAが共通のものになりその結果腸内細菌同士が友を呼びあうようになる”という意味のことを言っていました。久しぶりに顔を合わせれば昭和33年入学以来64年の時間は一挙に飛び越えられます。まさにこれがクラス会の妙味だと納得がゆく毎回です。

私たちが入学のころ身体検査の中でM検という検査がありました。今でも行われているのでしょうか。相撲の新弟子検査のような格好の中で校医の久野（？）先生が手のひらでMを持ち上げて検査するのです。その時会場で“何しやはりまんねん！”と叫ぶ声が聞こえました。その声の主はずっと飛田喜八郎君だと言われていました。ところが去年のクラス会の席上で当の本人よりあの言葉を言ったのは私ではありません。私は京都出身ですからあの言葉は使いませんと60年来の“冤罪”を告発する発言があったのです。皆本当にびっくりしました。60年以上も信じ込んでいた歴史的事実がひっくり返ったのです

から。しかしながらあの言葉だけは確かに聞いたという人もおり、では誰だったのかと言うと又、霧のかなたに隠れてしまいました。昭和33年と言えば食生活も豊かではありませんでしたがそれでも寮の生徒食の質素さには驚きました。朝食のアルミの椀に沢庵二切れと何か副菜はあったでしょうか。広く少しうす暗い厨房にどんと据えられた^{かまど}竈にふた抱えもあろうかと思われる鉄鍋から姉さんかぶりをした小柄なおばあさんが畑の肥溜めで使うような大きな^{ひしゃく}柄杓で鼻をすすりながら“あんたらなあ、わるいことしたらあかんでえ”などと言いながらバケツにどぼどぼと入れてくれたみそ汁は関東から行った人間には異様に色が濃く、濃い味とともに馴染むのに時間がかかりました。しかしあのおばあさんが注いでくれたあのみそ汁と消灯後上級生に連れられてエスケープして真っ暗な砂利道の“焼き飯坂”を超えて行って食べた“トンちゃん”のホルモン焼きの味こそが共通のDNAをもつ腸内細菌を育ててくれた原点だと思うと64年たった今、あの調理場のおばあさん、おばさんそしておたえちゃんと呼ばれていた娘さんたちの顔がしみじみと懐かしく感じられます。

年季を経た“木筋つちクリート二階建て“の校舎の廊下は歩けばミシミシときしむ“鶯張り”、天井は掌をたたくと^{てのひら}ビーンと響く“鳴き龍”の様な構造に古びており、寮の廊下は“タンツ”で磨いていました。真冬の朝でも消火用ポンプで廊下に放水し、ズボンの裾を膝までまくり素足でカウボーイがロープを束ねるように荒縄で作ったタンツで一斉に掛け声をかけながら腰を落としてこすって行きました。外出の時はその磨き上げた廊下を革靴で歩いていましたが足元の廊下の木肌の白さは今も脳裏にはっきりと記憶しています。

入学して暫くたってからの手荒い歓迎行事は“肝試し”でした。

私たちのコースは線路を越え入り江に面した火葬場の窯の中に置いてあるものを持ってくるというものでした。線路の手前の小川にかけられた木の橋を渡る際、下に潜んだ上級生が“わーっ”と叫ぶ大声に跳び上がり、焼き場では真っ暗な中で窯の中を探る手を中に潜んだ上級生にぎゅっと手を引っ張られたり、散々の目に合うフルコースでした。

ホームシックに慣れるまでは9時の消灯後に通過する上りの最終列車の汽笛を聞くと無性に家が恋しくなりゴールデンウィークで帰省できる日を一日千秋の思いで待っていたのを覚えています。

一学期の期末試験が終わると商船学校特有の水泳訓練がありました。観海流という流派の先生がきて長く泳ぎ続けるための日本泳法の指導を受けました。二週間の訓練の後に遠泳があり当時は池ノ浦の対岸にある海からしか行けない浜まで5キロと聞いたコースを志賀教官が先頭に行く伝馬船で山鹿流の陣太鼓と称して打ち鳴らす石油缶の音に鼓舞されて泳いでゆきました。

波打ち際の深みに生息する夥しい海栗の上に足をつかないよう気を付けて上がって、配られた飲み物が無性においしかったことを覚えています。

もう一つの謎は焼き飯坂事件です。焼き飯坂の峠を跨いで伸びていた松の枝に藁人形に白い生徒服を着せてぶら下げておいたところ暗闇の中で見たエスケープ（脱寮）して帰る上級生が腰を抜かさなばかりに驚いたという話です。

犯人は同級生の仲間内では斎藤正君と佐藤要君だと囁かれています。

コロナ禍が明けたら集まった席上で真偽を確かめてみたいと思っています。

若い時代、気力、体力が横溢していた頃、昔話は年寄りの証拠と敬遠されていましたが最近の研究では昔のことを思い出す頭脳作業は脳が活性化され老化防止に大いに効果があると解明されたと聞きます。

ここまで毎回20名近くの参加者で続けてこられたのは長く旗を振り続けてくれた坂倉修君とそれを支えてきた築田秀平君の労によるところが大いなるところでは。その坂倉君は2019年、天皇陛下の即位記念パレードを参観してクラス会を開こうとした際、杖に頼って出席した席上、俺はもうだめだから後を頼むよと言いました。そして1か月後の12月29日、折からの北風に吹かれるようにあっという間に鬼籍への航海に旅立ってしまいました。

通夜の席では参列した級友たちで校歌、寮歌を歌って送りました。

80歳を超えてきて鬼籍に入る人が増えてきました。クラス会を纏めてくれた坂倉君と鬼籍に入った同級生を偲ぶ機会を持つという声が出た、第5波が一息ついた昨年21年の11月、一人の女性から電話がありました。心覚えのないまま電話に出ると（父がクラス会に出席すると言っているが体力が落ちていて心配なので会場まで送りたい）という娘さんの申し出でした。会場に現れたのは同級生本人、娘さん、そのお孫さんと三代に互る顔ぶれでした。

記念写真に闘病中や病後の友人たちへ励ましの言葉を書いたメッセージと共に入ってもらい集合写真としては初めて見る珍しい光景ができました。

私たちの会ではこれからもクラス会を続けたいという声があります。腸内細菌同士で結ばれた絆を通して交流し互いに励ましを得る機会にして最終コーナーに潤いを添えられるよう続けたいと話合っています。

国立八期生 吉田 義郷 記

横浜港カッターレース報告 in 2022

鳥羽商船	一般艇	タイム	3分13秒19
鳥羽商船	シニア艇	タイム	3分15秒22

第39回横浜カッターレース 3年ぶりの開催多数のご参加をいただき、無事終了しました。

結果

●一般艇

3艇中2位でゴールも 予選通過ならず
決勝進出には30秒以上短縮要 やればできるはず？
来年は 現役カッター部員の数名参戦のうわさも…？

●シニア艇

レース3位着 今年も入賞かなわず
入念に準備するも 経年劣化も影響したか…？
来年もがんばります！

レース後、中華街での反省会（今年も）
冷たいビールが進み、楽しい1日を振り返りました。
今年も、楽しく、頑張りました。
皆様、ご協力ありがとうございました。

幹事 鈴鹿 文彦 (S63N)



全員集合 東日本支部“男前集団”精鋭



一般艇 (若手) 各期卒業生から選抜 精鋭 …レース前…

一般艇 新造 (精鋭)

艇長	宮本 一彦	S55N
艇指揮	大滝 恒	H09N
漕手	小脇 斉	H01N
漕手	小林 泰之	H06N
漕手	遠藤 蔭実	H21N
漕手	木瀬 良平	S63E
漕手	木下 友喜	H16E
漕手	田中 伸一	S61E



シニア艇 精鋭

今年も S51卒 (5期) 中心で構成日頃からのBody Care
頭部は後退するも 体力・体型は維持 “SUGOI !!”

シニア艇 360才 + α

艇長	村山 聖志	S52E
艇指揮	福田 憲二	S55N
漕手	稲益 義久	S51N
漕手	三輪 康広	S51N
漕手	林 俊克	S51N
漕手	山田 元昭	S55N
漕手	高橋 繁	S51E
漕手	内藤 文司	S51N



特集

「我等! 鳥羽商船」

在学生編

鳥羽商船での出会い

山北 峻佑 制御情報工学科5年

私の学生生活はとても充実したものでした。3年生時から4年生時にかけて『船歌集』の編集に携わらせていただきました。同窓会の西山様をはじめとした多くの方の支えを得ながら、完成させることができました。今でも忘れられない2020年11月23日、勤労感謝の日に船歌集の収録に立ち合わせていただきました。当時は、恥ずかしながら自分の知らない曲ばかりでした。しかし、動画を編集し、たくさんの曲や画像を知っていく中で、すべての曲に愛着がわいてきました。西山様からの度重なる修正依頼に対応し続けたのも、今となってはいい思い出です。2022年6月12日に開催された同窓会懇親会に招待いただいた際、先輩方の前で船歌集が流れ、西山様のもとへたくさんの感謝の気持ちが集まっていると伺ったときには、制作に携わることができてよかったと感じました。

現在、船歌を認知している学生はあまり多くないと感じています。この船歌集を通して、一人でも多くの人に知ってもらい、伝統として残っていくと嬉しいなと思っています。

4年生時に参加した第32回全国高専プログラミングコンテストでは、フラッシュゲーム形式でバレーボールにおけるスパイクのコースを予測する練習ができるシステムである「SEN-KEN」を作成しました。私自身、高専プロコンには初出場で、右も左もわからない状況でしたが、指導教員である中井先生には熱心な指導をしていただき、システムを完成させ優秀賞を獲得することができました。新型コロナウイルスの影響で登校できない日もありましたが、リモート会議などでチームのメンバーとコミュニケーションを密にとり、開発を進めました。このとき、自分の能力が拙かっただけかもしれませんが、実際に対面して、コミュニケーションをとることの大切さを知りました。コンテストもオンライン開催となり、自分の目の前に在るものが人ではなく、ディスプレイであるとき、物悲しさを感じました。こ

れもひとつの経験だと割り切り、生きていきたいものです。

部活動ではソフトテニス部に所属し、日々練習を行ってきました。2022年7月9日から10日にかけて開催された高専大会では、団体戦で男子が4位、女子が3位となり、個人戦でも6ペアが1回戦を突破し、徐々に勝てるチームになってきていると感じています。私が部活動をしてよかったと感じたときは、後輩の成長を感じたときです。私は2年生時から2年間、ソフトテニス部の部長を務めました。当時は幼い私でしたが、先輩や教官、同級生、時には、後輩からたくさんのことを学び、テニスのプレイヤーとしてだけでなく、1人の人間として成長することができたのかなと感じています。そんな私と一緒に部活動をしてきた後輩たちのチームが共に高めあい、成長していく姿を見てると、ほんの少しだけ親の気持ちがわかったような気がします。青は藍より出でて藍より青し。今のソフトテニス部に一番ふさわしい言葉だと感じています。

私がこの鳥羽商船で学んだことは、出逢いの大切さです。自分ひとりでは何でもない日常でも、仲間と過ごせばかけがえのないものになるということを知りました。新型コロナウイルスのパンデミックにより、学生生活は大きく変化しました。授業はリモート授業、部活動は停止、コンテストはオンライン開催、食事は黙食、遊びは自粛。学生生活は我慢の連続でした。今までの当たり前が当たり前で無くなったとき、はじめてその有難さに気付くのだと感じました。そんな状況ではありましたが、私はたくさんのご縁に恵まれ、学業・部活動・コンテスト活動・船歌集の制作などで、様々な人との素晴らしい出逢いがありました。その出逢いが私の学生生活を充実させたのだと感じています。

そんな拙い私ではありますが、これからも勉学に励み誰からも信頼され、共に成長できる存在となれるよう、また、これからの人生まだまだ先は長いですが、たくさんのお出逢いがあると願って、日々の生活を送っていききたいと思います。

最後にこの場をお借りして、すべての出逢いに感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございます。



暁寮で生活して

加藤 伶 商船学科航海コース4年

現在の暁寮はA棟(1年生と世話係学生)、B棟(2～5年生)、女子寮(全学年)があり、コロナ禍という事で全部屋を一人部屋とし、194人で生活しています。卒業生の皆様が経験されたであろう、1年生の白服生活は私が1年生の時の代で最後になり、現在は無くなりました。これからはどのような寮にしていくべきなのか、深く話し合っていきたいものです。また、全部屋を一人部屋にした事によって、寮に入りたいたいのに通学している学生もいるため、新たな寮を建造する案があるようです。

私はこの暁寮で4年半を過ごし、世話係学生や副寮長を通じて様々な事を経験する事ができました。大きく分けて2つあります。

1つ目は、リーダーという立場としてどのような行動をとればふさわしい人間になれるのかです。私は普段は、上からものを言うような人間ではありませんが、世話係として勇気を出して下級生に叱る事もありました。初めて叱った時は、足が震えるほど緊張しました。今でも、上手に伝えるべき事を伝えられるかなどの不安からか、ものすごく緊張します。さらに、納得してもらえるように理にかなっている事を言うように意識していると、次の言葉が出てなくなる事もありました。叱った後は、一人で部屋に帰って毎回のように頭を抱えていました。それでも、1年生がこの暁寮で少しでも成長してもらえればと思いつけていたのですが、1年生がそのような感じていれば嬉しいものです。もちろん、楽しく話す時もありました。巡検後に話しかけてくる子もいましたし、私とは他の階なのに毎回寮で起きた事を話してくれる子もいました。すれ違うたびに走って駆け寄ってくれて全力で挨拶してくれるような子もいました。こんなに親しく接してくれる後輩に出会えて幸せですし、なんでも話してもらえる世話係になれた事を心の底から嬉しく思います。

2つ目は、2個も3個も離れた上級生とも多くの時間を過ごす事ができた事です。風呂で会うたび、面白い話を聞かせてくださったり、将来のために話を聞かせてくださったりなど多くの事を教えてくださいました。他にも、ここには書ききれないほどの事もさせてもらいました。退寮する際にプレゼントを渡したときに、嬉しそうにしてくださったの

は今でも覚えています。また仲良くしてくれた、同級生にもものすごく感謝しています。



私も理解できないですが、夜中の4時まで語り合ったり、テスト前日に共に辛い思いをしながら勉強する事もありました。寮の中でも寮の外でも多くの楽しい時間を過ごす事ができました。

こんなにも多くの上下のつながりを広げる事ができる暁寮ですが、私はこの文章を書いている一週間後に退寮する事となります。このような様々な経験ができる暁寮がいつまでも残っていてほしいものです。

話し合いの重要性

久野 悠寿 商船学科2年

「辞めたい」と部活をしていて一度は考えたことがあります。

私は鳥羽商船高等専門学校に入学し、端艇部に入部しました。しかし、自分自身が入部してみると難しいことばかりで何度も心が折れそうになりました。特に私が難しく感じたのが話し合いです。全員が本気だからこそ意見がぶつかることもあります。言い方がきつくなることもあります。どんな意見でも間違えではないのだから誰の意見も否定から入ってはいけないと思います。自分の意見が通った時は誰かが我慢しているとその人への感謝の気持ちを忘れずに練習しなければいけません。それと同時に意見を言い合いながら切磋琢磨し自分自身を高められる部活ができている私はとても幸せ者だと気付かされました。

漕艇大会について

第57回全国商船高等専門学校漕艇大会が7月18日に開催されました。

試合前練習では回頭やスタートダッシュの漕ぎを確認し最終調整を行いました。その時の出来事です。私の重要な役割である回頭でブイに当ててしまったのです。このままでは私のせいで負けてしまうと思いとても焦りました。試合前練習が終わってからも頭が緊張と焦りでいっぱいでした。でも仲間がかけてくれる言葉は優しい言葉ばかりでした。「いつも通りやったら大丈夫」「ちょっとくらい大回りでも右舷が全力で曲げるから」私はこの言葉に救われました。

第3レースAチーム予選(富山高専 対 鳥羽商船)の試合が始まりました。いつも以上に体に力が入ります。それは私だけではありません。クルーも私と同じように力が入っているのが伝わります。スパートをして回頭に入りました。今回はブイと艇に余裕があります。回頭成功です。私は少し安心しました。最後まで声を出し、力強く漕ぐクルーの姿は世界一カッコよかったです。富山高専に39秒差をつけ決勝進出を決めました。

第6レースAチーム決勝(弓削商船 対 広島商船 対 鳥羽商船)が始まります。

スタートダッシュで弓削商船と広島商船に差をつけ回頭に入ります。回頭成功です。ですが回頭後、弓削商船に差を詰められます。仲間と自分を信じて諦めずに力一杯声を出します。

「絶対優勝する」みんなの気持ちは1つになっていました。「私も絶対に負けたくない、優勝旗を持って帰るんだ」と強い気持ちでした。

結果は2位の広島に15秒差をつけて優勝できました。言葉では絶対優勝すると言っていたもののどこかでは不安な自分もいました。ですが1番でゴールでき、仲間の顔を見てとても安心しました。そしてこの仲間と同じ艇に乗れたことに感謝しかありません。

私は冒頭で「辞めたい」と考えたことがあると書きました。この気持ちは私の逃げようとしている弱い思いだからこの考えを捨てなければならないとずっと考えていました。でも大会を終えた私の考えは変わりました。この気持ちは真剣に部活に取り組んだ自分自身や仲間にしかな味わうことの出来ない大切な感情で、一生の財産になります。そして回頭を成功した時に一緒に喜んでくれた仲間や失敗した時に励ましてくれた仲間がいるおかげで今も部活を楽しむことができています。

最後になりますが、鳥羽商船端艇部の活動を日頃より度重なるご支援賜りまして、誠にありがとうございます。今後とも鳥羽商船端艇部をよろしくお願ひ致します。



卒業生編

タンザニア「DaresSalaam」港の
思い出

家田 和良 昭和39年 航海科卒

自分が商船三井に在籍した34年間の中で、一番思い出に残るタンザニアのDaresSalaam港、長期出張勤務の思い出について述べてみたいと思います。

昭和64年（平成元年）4月、本社海技課勤務（3年半）を終えた後、DaresSalaam港への長期出張を命ぜられた。当時定航部アフリカ課は東アフリカ航路に2隻配船し臨時に1～2隻、荷の出具合により配船していたが、種々の原因で大幅に遅れが発生していた。

最初清水船長が行き2番目に自分が行くことになった。この頃欧米各国の船社は既にPORT CAPTAINを送って独自のオペレーションを展開していた。

遅れの原因は何なのか、何を改善すればスムーズになるのか、とにかく現地について、見て確かめ実行する以外にないと言うことであった。

最大の原因はコンテナのハンドリングの遅れであったので、20トンと10トンのフォークリフト2台を送り独自のオペレーションをする必要があった。そのためには、海技者が行き現地で指揮を執ってほしいとの事であった。

さて仕事上の目的は粗方わかったものの、生活面特に言葉、食べ物、衣類、その他諸々、まったく未知の世界であったが悩んでも詮無いことと諦め、真っ白な状態で行くことにした。

単身であったが代理店が探してくれた、あるマンションの3LDKで掃除、洗濯、炊事手伝い等、一人の現地女性が昼間8時間いてくれる生活が始まった。又事務所の一角に一部屋与えられ、事務員一人が付けられた。言葉は英語で通じると聞いていたが、大体理解してくれるが肝心の時は現地のスワヘリ語になり逆にこちらがわからなく困った。さらに、東京との通信はTELEXで行うが、これを打つタイプライターは横に穴の開いた旧式のもので、事務員に原稿を渡すが間違いが度々あり、何回修正したことか、最後は電話で確認する事も^{しばしば}屢々。

又、食材の米、味噌、醤油、等は船で託送してもらったが、半分は現地食のパームオイルで料理したものを食べたり、中華料理が多かった。

タンザニアは社会主義国で、ポート オペレーションは国営のTNPA（タンザニア、ナショナル、ポート オーソリティ）が全て行っており、船社独自のオペレーションを行うためには、マネージャー以下関係者の承諾を得る必要がある。このため代理店及びTNPAの責任者と何度となく接触しある時は食事に誘ったり、お土産を送ったりとありとあらゆる事をしないと承諾を得られない。又港で作業員を使うのも同じである。コンテナガントリークレーンは設置されてから日が浅く、全てにおいて習熟しておらず、又電力不足から17時～翌日6時頃まで停

電してしまふ。昼間でも時々止まるので、荷役を継続するには本船クレーンと自前の20トンフォークリフトで行うが1台では足りず、さらに24トン1台を日本より送らせた。積み荷は銅（銅板や銅棒）、コットン、コーヒー豆が主であった。港湾労働者（ステベ）の口数の手配、積み荷計画等も自ら行い、又港湾労働者はすぐサボるので、親玉（フォアマン）を呼び、美味しいもの（チャイ）など与えたり、都度あの手この手でやったものである。

又毎月1週間程ケニヤ、モンバサ港へ行き代理店や船のオペレーションの指導もおこなった。陸路DaresSalaam空港からケニヤのナイロビ空港、さらにモンバサ空港へと行き、迎えに来た代理店の車で宿舎のホテルへ向かった。この時の飛行機は高度3000メートルを飛ぶプロペラ機で、隙間風がひどく、いつ落ちるかかわからないとヒヤヒヤしたものであった。途中ナイロビには陸員の駐在員がおり彼の家に一泊、夜諸々の話やゴルフも一緒にプレーしたりした。この間は楽しいひとときであった。

休みの日が1ヶ月で1週間ほどあり、この間車でタンザニア奥地の自然動物園セレンゲッテやケニヤのキリマンゼロ等にも行って楽しんだ。

自分の家に帰るのは夕方6時頃であった。家政婦は帰るまで待っておりその日の出来事を報告して帰るが、冷蔵庫の中の缶ビールがいつも2～3缶なくなっていた。但しその他のものが無くなることはないのだから咎めはしなかった。

約1年半、40代の半ばであったがこの経験は誰にもできるものではないと今でも一番の思い出として深く焼きついている。



筆者略歴

昭和39年(1964年)3月 鳥羽商船高等学校本科航海科卒
昭和41年(1966年)2月 同専攻科同卒
昭和41年(1966年)4月 (株)大阪商船三井船舶入社
平成12年(2000年)12月 (株)商船三井退社
平成13年(2001年)1月 伊良湖三河湾水先区水先人会入会 水先人就業
令和1年(2019年)4月 伊勢三河湾水先区水先人会退会 水先人廃業

!!異業種で頑張っています!!

中川 裕 昭和48年 機関科卒

会員の皆様、初めまして。

私は昭和48年E科卒業の中川裕と申します。卒業

有限会社 ワイケイ

本店 〒471-0031 豊田市朝日町3-52-3 サロンドユキ

TEL/0565-31-7500

代表取締役

支店 〒471-0013 豊田市高上2-31-11 ハッピーツウイギー

TEL/0565-88-2145

羽田 健司(S50E)

後50年もの時間が経過してしまいました。商船学校卒業後、このような仕事をしている仲間もいるのかと思っていただけたら幸いです。

現在の仕事についてお話しさせていただきます。

三重県津市に本社を置く株式会社ライフ・テクノサービスの代表取締役会長を行っています。会社は介護保険制度に沿った事業として、特定施設という老人ホーム（5施設）の運営と福祉用具レンタル（9事業所）の業務を行っています。また、社会福祉法人敬峰会の理事長として、特別養護老人ホーム（2施設）と介護老人保健施設（1施設）を三重県内で運営しています。現在の関連施設入所の顧客は約500名と福祉用具利用者が5000名ほどいます。

なぜ、この仕事に就いたのかを良く取材されるので述べさせていただきます。

私は卒業前の航海訓練で東南アジアを回るコースで実習を行いました。その当時シンガポールに寄港して、街中を散策していると、ウミガメのはく製や象牙さらに赤サンゴの飾り物など今では取引禁止の商品が店頭に大量に並べられている風景があり、古い町並みが懐かしく心躍る楽しい景色でした。

その後、就職先は昭和海運株式会社で4等機関士として入社しました。同僚は3機関士から乗船していましたが、私はゆっくり番外機関士として研修できる事を、ありがたい事と思い、4等機関士を拝命して1等機関士の補佐役として、就業しました。職務怠慢な私は、仕事のしない奴だと思われる事でしょう。

鉄鉱石運搬船、チップ専用船、石油運搬船、穀物運搬船などに勤務しました。

私は海外での上陸時には、すぐに感じとれる異国の匂いが好きで、外国に入港するごとに、“若いんだから一番先に上陸してもいいよ”との言葉に甘えて、一番先に上陸をさせてもらう楽しい船員生活を送っていました。そのような、何の不満もない海上勤務を過ごしていました。

海上勤務も8年目の頃、航海中にぼんやりとシンガポールの風景を眺める事があり、練習船で経験した、古い懐かしい好きなシンガポールの景色が、近年多くのビルが建設され、大きな都会へと変貌していく景色がとてもパワフルで、頭脳を持った町として映るようになっていました。

その時、海上勤務している自分とは比較にならないほどのスピードで発展していく世界を目の当たりにして、自分の生き様を、地上で見つけないかと思うようになり船を降りる決意をしました。

決意して退職した私ですが、仕事のあてもなく、とりあえず叔父さんのところでお世話になり名古屋市にある研究用機材の販売会社で勤務しました。その2年後に三重県で営業所を開き業務を開始することになり、E科として得意の細胞培養装置や冷凍保存の機器をメンテナンスしたり、パソコンによる遠隔監視を行うソフトとハードの特注依頼を受けるなどの業務を積極的に行ってきました。

業務を通して研究用機材と福祉用具は違和感なく

取扱いができる事を確信していたので、介護保険制度が開始される3年前に福祉用具の輸入・販売を開始し、法人を設立しました。

その後2000年から介護保険制度が発足し、当社は福祉用具レンタル事業を三重県下で開始しました。私の職歴では介護業界知識は不十分ですが、機械に対する不安は微塵もなく、業界では特異な体質であったと思います。

そこで特異体質を生かした介護の間接的サポートを行うとの理念のもと、器機の安全と適合性を確認する業務グループを立ち上げ、介護用品を安心して利用していただくシステムを確立しました。

その2年後には、厚労省が福祉用事業者に対し当社同様のサポートを行うことの法制化を行いました。

現在、私の会社では福祉用具やソフトウェアの研究開発部門が有り、特許申請や大学との共同研究と商品の実用化も積極的に行っています。

今年度の開発テーマは介護現場の安全性向上と省力化器機の開発（AIを利用した離床予測システム）や情報分野では厚労省が進める“LIFE”に沿ったソフトウェアを2023年中に発売計画で進めています。

三重県では業界の売上げTOP企業となっておりますが、働きやすさでもTOPとなるべく組織作りを行っています。

ご縁がございましたら、当社への就職や商品のご提供もさせていただけたら嬉しいです。

今後も理念と夢を実現する会社でありたいと願っています。

三重県津市中央4番19号 LTS中央ビル

株式会社ライフ・テクノサービス

代表取締役会長 中川 裕

参考) 株式会社ライフ・テクノサービス <https://www.life-techno.jp>

社会福祉法人敬峰会 <https://www.keihoukai.net>



感謝しかない学生生活

杉谷 美緒 平成7年 電子機械工学科卒

鳥羽商船高等専門学校を卒業して27年たちまし

株式会社
ライフ・テクノサービス

福祉施設、福祉用具のことならお任せ下さい。

〒514-0032 津市中央4-19 LTS中央ビル1F

社長 中川 裕(S48E)

西脇 功(S49E)

東谷 亮(H3E)

た。地元が少し遠かったので、女子寮に入寮しました。私が入学した頃はまだ女子学生が少なく、女子寮も昔の男子寮を改装されたもので、台風になると風で床下にある蓋が空いてきたり、テスト期間中に夜食を作るために電熱器を使いすぎると、ブレーカーが落ちて大騒ぎになったりと、なかなか不便な寮生活でした。

色々と規律も厳しい寮でしたが、それでも先輩にされた怪談話が怖すぎて同級生7人全員で同じ部屋で寝たり、毎年7月7日には素麺を大量に茹でて「素麺大会」をしたこと、テスト期間中にみんなで現実逃避のために「あずまや」に買い物に行ったり、勉強や生活を支え合っていた同級生と楽しく過ごせました。

そして、特に(勉強よりも)時間を割いていたのはバレーボール部のマネージャーです。最初は女子バレー部の選手として入部したのですが、元々運動が得意な方ではなく、皆さんについていくのが無理でしたので、男子のマネージャーにならせてもらいました。「選手ではないから、楽になるかな」と思いきや意外と大変で、普段の練習では飲み物や備品の準備、試合のときは飲み物だけでなくバナナなど少し口に入れるものを、試合後はユニフォーム2セットとハチマキの洗濯をとやらなければならないことがたくさんありました。

そのすべてを教えてくださいましたのは、3学年上級生の先輩マネージャーでした。その先輩は何事も完璧で、最初私は何もできず、謝ってばかりでした。それでも先輩は「謝らなくてもいいよ」と優しく仰って、粘り強く指導してくださいました。その御蔭でなんとかやっていくことができました。

自分が上級生になってからは、今度は下級生に教えられることが多くなりました。自分が年上だから何事も詳しい、自分より年下だから何もわからないという固定概念はあまり無く、「自分以外はみんなが先生」と気付かされたのも下級生たちです。バレーのルールやフォーメーションについて教えてくれる下級生、バレーがほんとにやりたい、一生懸命な気持ちを教えてくれた下級生など、素敵なお先輩たちでした。そして、色々手伝ってもらいました。

当時いらっしゃった教官やコーチにも、とてもお世話になりました。バレーのことも世間のことも全くわからない私の相談に親身になってくださり、色々勉強する機会を作ってくださいました。

振り返ってみると、商船に入ったことで自分を助けてくれる沢山の人に会え、授業の「勉強」だけでなく、人生としての「勉強」をしたと思います。

どちらの「勉強」も大事だとは思いますが、社会人になり会社の先輩方との会話や困ったときの相談の仕方、後輩に気軽に話してもらえる環境の作り方、後輩にも自分がわからないことを聞く方法など、クラブや寮で上級生、下級生との交流が多かった分、スムーズにできています。

商船にいた頃は、普通の高校と違い5年間を寮で過ごし、専門課程を勉強することが卒業してから何

年も生かされるようになるとは思っていませんでしたが、これからもっと年齢を重ねていっても商船での自分が「基礎」となっていくんだと思います。

母校に勤めて

谷水 志帆 平成16年 航海科卒

平成16年商船学科航海コース卒業の谷水と申します。令和2年4月からテクノセンター第三技術室(艇庫)に勤務しています。艇庫に勤務する前1年間は、非常勤事務職員として企画・地域連携係に勤務しておりました。その時にたまたま艇庫職員の募集があることを知り、私にできる仕事なのかと悩みましたが、まわりの後押しもあり挑戦いたしました。



艇庫前からの風景

実は私は卒業後船の道には進まず、全く別の進路を選びました。それを決めたのも卒業前の乗船実習中です。実習はとても楽しくたくさん貴重な経験することができましたが、仕事として船に乗ることからいったん離れようと思うようになりました。鳥羽商船に入学する前から船乗りになることに憧れていたもので、それ以外の将来は考えたことがなく乗船実習中は本当に悩みました。少しでも船に関わる道に進むのか、新たな道に進むのか…。そんな時、一緒に乗船していた士官の方が「この船に乗ったことが君たちの人生の何かきっかけになれば良い。それが違う道に進むきっかけであっても良い。」という話をされたことがありました。その話を聞いた時、一度船から離れて新たな道に進もうと思えるようになりました。

その後船に関わる仕事に携わることはなかったのですが、今回艇庫職員の採用が決まったことは何かご縁があったのだと思っています。

採用1年目はちょうどコロナウイルスが流行し始めた頃で、通常ではない状況でのスタートでした。前期は授業も遠隔授業で実習もなかったもので、対面授業が開始されるまでに小型船舶の操船練習を行ったり、業務に必要な資格講習を受講した期間でした。2年目になるとコロナウイルスによる制限はあるものの、概ね一年間の流れを経験することができました。今年で3年目。自分でできる仕事も増えてきてやりがいを感じながら毎日過ごしています。こうして落ち着いて仕事と向き合えるのもまわりの方のサポートが関わっていることだと実感しております。今後、まだ経験していないことで壁にぶつかることもあると思いますが、そんなときは一人で悩まず一歩ずつ乗り越えていきたいと思っています。少しでも母校に貢献できるよう努めて参ります。



卒業後の進路を悩んだ海王丸

事務局だより

令和4年6月の定期総会・理事会において、令和7年の母校創基150周年記念事業と共に、同窓会設立100周年記念事業を同時開催することが承認されました。

同窓会設立100周年記念事業は記念誌の発行を含め、総額200万円の予算で行い、詳細は会長に一任されました。

記念事業予算200万円の捻出は、同窓会の本会計から支出予定です。また、令和7年の「母校創基150周年、高専創立60周年記念事業基金」に理事会承認の上、本会計から500万円の協力金の支出を行い、6月の定期総会で報告させて頂きました。

本年会報発送時に例年通り同窓会の振込用紙を同封させていただきますので母校発展、同窓会の親睦と永年継続のために年会費の納入と同窓会への寄付のご協力を宜しくお願いいたします。

御寄付に協力いただいた方には昨年製作した「思い出の鳥羽商船」の船歌集DVD・CDのセットを謝礼として送らせていただきます。但し、この謝礼は在庫なくなり次第終了させていただきます。

又、母校より依頼で、母校創基150周年記念事業基金の趣意書とご寄付の振込用紙を同封させていただきました。

誠に恐縮ではございますがこちらもご協力のほどよろしくお願いいたします。

事務局長 江崎 隆夫 (S44E) 記

船歌集「思い出の鳥羽商船」同窓会HPで視聴できます



パッケージの中はCDとDVDセットです



同窓会HPでバナーをクリックして頂きますと案内ページが開きます

サンプル映像を同窓会HPに公開しています。是非ご覧ください。



校歌のDVDひとコマ



練習船の歌のDVDひとコマ

YANMAR

ヤンマーディーゼル特約店
(株)鳥羽ヤンマー

〒517-0011
三重県鳥羽市鳥羽3-31-30
TEL/0599-26-2818 FAX/0599-26-0820
<http://www.amigo.ne.jp/~tbyanmar/>

代表取締役
江崎 隆夫(S44E・86期)



山本通船有限公司

〒470-3503 愛知県知多郡南知多町師崎的場1-17
TEL/0569-63-0199 FAX/0569-63-0204

代表取締役 井上 道彦(S40N)



ホームページ
スポンサー
募集中!!

スポンサー広告ご協賛企業

ホームページ・名簿のスポンサーを募集しています。
詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

<p>業務用加湿器のトップメーカー</p> <h2>Wetmaster</h2>	<p>鳥羽の老舗割烹料理</p> <h2>大阪屋</h2>
<p>(株)鳥羽ヤンマー</p> <p>S44/E 江崎</p>	<h2>iiiムロオ</h2>
<p>鳥羽ビューホテル 花真珠</p> <p>女将 迫間まち(旧姓:山門)</p>	<p>医療法人友仁会</p> <p>友仁山崎病院</p> <p>理事長 矩照幸 S52E</p> <p>人間ドックで早期発見</p>
<p>名古屋メッキ工業株式会社</p> <p>NAGOYA PLATING CO.LTD</p> <p>OUR PRIDE</p> <p>「水と空気以外はめっきします」</p>	<p>自動販売機</p> <p>ご紹介キャンペーン</p> <p>株式会社フード・テクニカ</p> <p>S55E 稲垣</p>

学生募集
の
PR依頼

少子化の時代を迎え、義務教育以外の学校は皆、学生の確保に躍起になっています。特に大学は学生の全入学時代に突入し、一段と厳しさを増しています。将来に向け予断は許されず、学校としても学生募集のPRに励んでいます。つきましては、より優秀な学生に入学していただくため同総会員の御協力を仰ぎたい所存です。学校に御連絡いただければ、A2版ポスター・学校案内冊子・学生募集要項をお送りしますので、下記宛に御連絡いただきますよう、よろしくお祈りします。

独立行政法人 鳥羽商船高等専門学校

国立高等専門学校機構

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 電話(0599)25-8404
ホームページアドレス <http://www.toba-cmt.ac.jp/> E-mai gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求(無料)は本校の学生課入試・支援係へ

鳥羽丸 facebook ぜひご覧ください →
(facebook アカウント登録が必要です)



同窓会ホームページ <http://tobashousen-dousoukai.com>

<p>明日へつながる信頼の航跡</p>	<p>内航海運業・土木工事業</p> <p>盛徳海運建設株式会社</p>	<p>〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽四丁目2388-10</p> <p>TEL/0599-25-3033 FAX/0599-25-6319</p> <p>http://seitoku-net.co.jp</p>	<p>代表取締役 小田 徳彦</p> <p>船舶統括責任者 小田 純矢(H08E・111期)</p>
---------------------	--------------------------------------	--	--

<p>医療法人友仁会友仁山崎病院</p> <p>〒522-0044 滋賀県彦根市竹ヶ鼻町80番地</p> <p>TEL/0749-23-1800 FAX/0749-23-1928</p>	<p>理事長 矩 照幸(S52E)</p>	<p>堀登記測量事務所</p> <p>〒584-0045 富田林市山中町1-15-9</p> <p>TEL/0721-23-2310 FAX/0721-23-5444</p>	<p>土地家屋調査士 堀 忠幸(S48E)</p>
---	-----------------------	---	---------------------------

<p>株式会社 三村工作所</p> <p>〒547-0001 大阪市平野区加美北3-17-11</p> <p>TEL/06-7492-2574 FAX/06-7492-4983</p>	<p>代表取締役 三村 純一(H05E)</p>
--	------------------------------

頁下段には、平成30年版会員名簿の広告掲載いただいたスポンサー様を掲載させていただきました。

スポンサー広告、募集中!



皆 様 ご き げ ん よ う

